

平成17年度「立ち上がる農山漁村」第1回有識者会議 議事録

林座長 平成17年度第1回「『立ち上がる農山漁村』有識者会議」の開催に先立ちまして各委員から今回の候補になっていますところを御紹介いただきます。

(選定予定事例の産物等の展示を見ながら有識者会議委員より事例概要について説明)

林座長 それでは、お座りいただけますでしょうか。

ただいまから、平成17年度第1回「『立ち上がる農山漁村』有識者会議」を開催いたします。開催に当たりまして、安倍官房長官からごあいさつを賜りたいと思います。

内閣官房長官 「『立ち上がる農山漁村』有識者会議」の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

まず、有識者会議委員の皆様には、御多忙中にかかわりませず御参加いただきましたこと、厚く御礼を申し上げる次第でございます。

先月、第3次小泉改造改革が発足いたしまして、その基本方針として引き続き地方にできることは地方にとの方針の下に、地域の潜在力を引き続き出し、地域再生、地域経済の活性化を図っていくこととしております。

このため、地域自ら考え行動する、自立的で経営感覚豊かな農山漁村づくりを推進する、「立ち上がる農山漁村」の役割はますます重要になってくると考えております。

これまでも有識者会議委員の皆様の御協力によりまして、現地視察やシンポジウムの開催などを通じた意見交換や、情報発信により多くの事例で地域のやる気が出た、また売上げが伸びたなどの効果が出ているというふうに聞いております。

このような「立ち上がる農山漁村」の活動を通じ、全国の農山漁村がますます元気になっていくものと期待しております。

先ほど、有識者委員の皆様自ら御説明をいただいたわけでありましたが、それぞれ本当に個性があって、大変楽しくおいしいものを御案内いただいたわけでありまして、農村というのは何となく守らなければいけないという認識があったわけでありまして、それぞれ本当に個性があって潜在力を生かしていけば、また地域の皆さんが自ら考えて未来を見つめて頑張っていけば、いろんすばらしいものが出てくるんだということを実感した次第でございます。

都市に住んでいる人たちにとっても、農村が生き生きしているということが自分たちの生活が豊かになっていくことにつながっていくという認識を持っていただくことも大変必要ではないかと思っているわけでございます。

本日は、また更に皆様方から忌憚のない御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。どうもありがとうございました。

林座長 ありがとうございます。

(報道関係者退室)

林座長 安倍長官は、この後所用がおりとのことですので、ここで御退席されます。 どうもありがとうございました。

(内閣官房長官退室)

林座長 それでは「『立ち上がる農山漁村』有識者会議」の議事を進めてまいりたいと思います。今日は御多用のところ本当にありがとうございました。

「立ち上がる農山漁村」では、先ほど官房長官もおっしゃいましたが、経営感覚を持って地域自らが考え、行動する、先駆的な取組みで地域を元気にしている事例を選定して、全国に発信することによりそのような取組みが広がることを目的に行われているものでございます。昨年度、第1回の会議で30の先駆的事例を選定いたしまして、これまでに農林水産大臣や有識者会議委員の皆様、そうした事例の場所に御訪問いただき、御視察、アドバイスをいただいたところであります。

今日は、これから新たな事例選定を行うわけですが、公募の結果、全国から128もの応募がございました。これも「立ち上がる農山漁村」の支援の効果を地域の方々が感じていただいている結果というふうに思います。

それでは、これから30事例を決定したいわけですが、意見交換をさせていただきたいと思います。候補として上がっている30事例について、各委員がどのような視点で事例を選定されたかという理由についてご説明いただければ大変ありがたいと思います。

最初に、永島委員からお願いします。

永島委員 私は、一覧表の4番目にあります北海道興部町のノースプレーンファームを訪ねたことがあります。オホーツク海に面した本当に北の果てのところなんですけれども、ここから先ほど林さんがおっしゃったように、自分たちが経営感覚を持って、こんな過疎な町からでも変わっていけることができれば、日本の酪農・農業に元気が出てくるのではないかと。そのために、自分たちが頑張っていこうと。

やはり牛乳や何か問題になりましたので、食の安心・安全、そしてクオリティーの高いものをつくっていこうということを目指している事例です。

先ほど御紹介されましたけれども、浅舞婦人漬物研究会もやはり、これからは女性の時代ということで、男の人もそうですけれども、直売場などでの販売などで非常に女性が頑張っています。

もう一つ、これからのごみという問題、生ごみの問題から、日本は土着菌や何かで非常に優

れている土壤があるところなので、そういう意味で選びました。

林座長 ありがとうございます。

それでは、丹羽委員、お願いします。

丹羽委員 私の方は、一番最初に選びましたのは、北海道の置戸町というところで、余り名の通った地名ではないと思いますが、北海道の東部にありまして、網走支庁管内になる女満別から1時間20分ぐらい車で行かなければいけない、8割が森林の人口4,000人ぐらいの町です。もともとは鉄道や炭鉱のトロッコや鉄道の枕木のために植林されまして森林ができてきたわけですが、だんだん輸入材が入ったりしまして利用されなくなりました、トドマツ、カラマツを木工クラフトということで有効に利用されまして、ここに展示されているようなオケクラフトという名前で木工ロクロを使用して製作しておりますので、非常にきれいにできております。これが大変に有名になりまして、研修生の制度を創設して募集をして、今、27の個人工房のうち21工房が稼動しており、また、そこに移住する方も増えており、全国でも珍しく町の人口が増えているということで、今、農村の人口が減っている中で、ここは珍しい模範的な事例ではないかと思えます。

研修生制度ですが、一時はお金も町がもってやっていたわけですがけれども、最近はお金も逆にお金をいただいて、それでも応募されて移住されるということで、1つの農村活性化の非常にいい例ではないかということで、約二十年間続いております。

これが契機になり、白花豆という高級菜豆の焼酎ができたり、あるいは「山葡萄ワイン炎の里おけと」というようなものもできて、いろいろこれが契機になって新しい町の新産品が生まれてきているということで、大変典型的な成功事例ではないかと思えます。そのほかに、岐阜県恵那市の栗きんとん、これは安倍先生も大変お好きで、おいしい、おいしいと言って中川先生にもおすすめして食べていただいたのですけれども、恵那というのは天照大神のへその緒が納められたと伝えられていて、恵那栗といえます。恵那という意味は、国語事典を引いてみるとおわかり頂ける通り、へその緒とか胎盤の意味なのです。それで恵那という名が付きまして、この恵那栗は栗きんとんに最も適した栗らしいのです。1つの枝に幾つもの栗がなるということで、全国的にも恵那栗は大変人気のあるものでありまして、これが大変地域振興に貢献しているわけです。

あとは、ここにあります伊万里の特定非営利活動法人のはちがめプランとか、そういうところを選ばせていただきました。

林座長 ありがとうございます。

それでは、次にマクドナルド委員、お願いします。

マクドナルド委員 私の選択の仕方は、多分ほかの委員とちょっと違うと思うのですけれど

も、私は林業とか漁業の事例がもうちょっと照明を浴びた方がいいのではないかとあって、できるだけ林業とか水産関係の事例に絞って選びました。林業の例は和歌山県と兵庫県です。、兵庫県はこれからという部分があることは否定できないと思うんですけども、和歌山県は林業に貢献しているだけではなくて、やはり過疎化の中でうまくイターンを成功させている事例の一部ではと思います。あとは若い男性だけではなくて女性たち、コミュニティー全体につくっていかうということで、なかなか和歌山県は頑張っているのではないかと思います。

北海道の事例なのですが、これは実は雪を使って、それを冷蔵庫のクーラーの代わりに使用し、ランニングコストを4分の1まで下げています。こういう省エネルギーに貢献するような工夫はもうちょっと1次産業で推進していかなければならないと思っております。

もっといろいろなところで、農業、水産業、林業でも、省エネルギーの工夫はもうちょっときちんと考える必要があるのではないかと思います、これをあえて選択しました。以上です。

林座長 ありがとうございます。

それでは、最後に三國委員、お願いします。

三國委員 私は北海道生まれでございます、たくさん北海道から選んでいただいて、ありがとうございます。

私は、食育という活動もしているのですけれども、今、日本が自給率40%を切っていていいる中で、北海道が190%なんです。去年は180%だったのですけれども、去年10%上がり190%になったんです。東京は1%で、大阪が2%です。

その中で、実はめん羊、ヒツジを選んだのですけれども、中川大臣がおられるんですが、牛肉が止まりましたね。日本人は赤肉、牛肉が好きなのですけれども、一時全体がブタにシフトしたんです。ただ、日本人はやはり赤肉が好きだったんです。それでたまたま、これはマスコミも手伝って、ラムを食べると脂肪を燃焼すると、それが女性に食べるとダイエットになるということで火が着いて、そこで牛が食べられないので、ブタだとちょっとさっぱりし過ぎてと、それでラムがジギスカンだったということで、相乗効果でラムが大ブームになっております。

実は10年前に私は、焼尻という島がありまして、そこはヒツジの数の方が人口よりも多かった所です。そこを、10年前ですからまだ日本中でヒツジの価値が余りなくて、売れなくてやめるといので私が止めたんです。なぜかという、今はもうすごいのですけれども、プレサレと言うんですが、フランスでプレというのは近い、サレというのは塩ということなんです。イギリスからこの新種が来ているのですけれども、要はプレサレというのは、海の近くにあって、その海の塩気を草が含んで、それを食べると霜降りになるんです。それをプレサレと言うのですけれども、これはもうフランスの高級ブランド、ヒツジなんです。焼尻というのは、周りが全く海で、その草がプレサレだったんです。私とその断面を見たら霜を降っていたんです。

そうしたら、すぐに北海道新聞とテレビ局が取り上げて、それが日本のフランスレストラン

で、今、高級ブランドになってしまって、我々にも手に入ってこないぐらいの高級ブランドになっているんです。

ですので、やはり北海道というのは自給率も 190 %ありますし、そういう環境があって、北海道のプレサレというべき海に囲まれた塩分を含んだ草でこのヒツジを育てていて、これは町も絡んでいるので、行政との三位一体でこういうことが産業になっていくと、北海道はますます環境と土地の条件が全部整っていて、ヒツジがうまいというのはそういうわけなんです。

ですから、そういう地域性をもっとアピールしていけば、もっと広がっていくということで、非常に未来性があると思います。今、空前のジンギスカンブームですが、残念ながら東京で食べるとうまくないんです。それはちょっと指導しなければいけないのですけれども、そういうことで選ばせていただきました。

林座長 ありがとうございます。

今日は、御欠席の委員の方からもコメントをいただいております。例えば、ダッシュ村のディレクターをやっておられた今村委員は、北海道から北いぶき農業協同組合、これは沼田町ですけれども、厄介な地域資源である雪をエネルギーに利用したということとか、先ほども御紹介がありましたけれども、伊万里のごみ、こういったものに注目されて選ばれたということでした。

それから、小泉委員は、やはり食べることに非常に熱心な方ですから、沖縄のゴーヤ、中川大臣も毎日ゴーヤを食べておられるそうですけれども、ゴーヤの附加価値を高めたということとか、岩手県の花巻市では、母ちゃんパワーで頑張っていることを評価したとのことでした。

白石委員は、広く北海道から佐賀県まで選んでおられますけれども、やはり地産地消の取り組みであるとか、海外に宅配までするという、そこに展示されている千葉県のココポンですけれども、そういったものに注目されたということでもあります。

長岡委員も随分たくさんのお話を聞いておられますが、女性たちの町全体の取り組みであるとか、特に女性の視点で選ばれたということをおっしゃっておられます。

私も委員の一人として候補を選定させていただきましたが、北海道から沖縄までの農村地域だけでなく、大都市の近くでも頑張っているという意味では、小田原の辺りも入れてもらいたいと考えました。農村の雰囲気や都会に持ち込むという意味でも頑張っていたらいいということなんです。

今、縮小する建築市場の中で、建設会社のあぐりが社員の雇用確保から農業に進出してきているという事例も候補に上げさせていただきました。

委員の皆様から御意見をいただきましたが、これまでの意見交換を踏まえて、各委員に御選定いただいた 30 事例を、今年度の「『立ち上がる農山漁村』有識者会議」で決定させていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

林座長 どうもありがとうございました。それでは、資料3にございます30事例を選定いたしました。

本日御出席いただいております、中川大臣、中馬大臣から、非常に駆け足でやってまいりましたけれども、御意見あるいは御感想を賜りたくお願いいたします。

農林水産大臣 本日は、林座長始め有識者委員の皆様、お忙しいところを誠にありがとうございます。本当に長期間にわたり、それから全国各地のそれぞれ自信を持っているものが多数あった中から、多分全部味見をしたり、手に取っていただいたりして、大変な御労力をおかけしたことを感謝と、また厚く御礼を申し上げます。

今の委員の皆様方の選考の基準は、例えば省エネであったり、食育、本物であったり、林水の視点を当てたり、あるいはまた健康とか、そういうキーワード、いずれもこれからの、私の所管を含めて、小泉総理の政治の基本理念にも合致するところでございます、厚く御礼を申し上げます。

私も、農林水産大臣になって、農林水産省はBESTを尽くしてやっていこうということで、BESTのBはブランド、Eはエデュケーション、食育とエクスポート、日本は約六兆五千億円の食料品を輸入しておりますが、輸出は約三千億しかないという状況で、いいものを世界に届けようということでございます。

Sはストロング、まさにここに並んでいるものは、それぞれみんな強いものだと思います。

Tはチームワークということでやっていこうということでございまして、是非この選んでいただいた30事例、これから日本中の本物志向のお客さんに、それから世界中の日本ブランド、健康でおいしい日本食品、あるいはまた日本の木工品、水産関係品含めて、今日がスタートということで、これから更に飛躍していくように、我々行政も精一杯また応援をさせていただきたいと思いますので、今後とも御指導をよろしくお願いいたします。

本当に今日はどうもありがとうございました。

林座長 中馬大臣、お願いします。

地域再生担当大臣 地域再生とか、いわゆる特区を担当しております、中馬弘毅でございます。今日は有識者会議の先生方、こうしてそれぞれの地域の中から掘り起こして、30事例を選定していただきまして、それぞれの町や村の関係者にとっては非常な誇りであろうと思いますし、また励みになってくると思います。

私どもも一昨日、官邸で、特区・地域再生の応募がありましたものを選定させていただきました。本当にいろいろなものが出てきまして、またこの皆様方が選ばれたものを組み合わせれば、もっともっと多様な地域社会の活性化につながってくるのではないかと思います。

たまたまそこに肥料が出ていますけれども、そんなのもあるんです。カブトムシ特区と言い

まして、家畜の肥料を野積みしておいてはいけません。しかし、その中にカブトムシを入れて飼育しますと、カブトムシも大きくなるし、そのウシの糞が非常にほかほかとなって、それでトマトを育てたりすると、これが肥料としても非常に有効だと。それで特別に野積みをしながら、そこでカブトムシを飼うということを特例として認めて特区にしたわけです。

こういったような、農山漁村とつながったような問題もたくさんあると思いますから、そういうことを幅広く連携しながらやっていただけたらと思っております。

どうもありがとうございました。

林座長 どうもありがとうございました。

本日は、大変貴重な御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。次回は「立ち上がる農山漁村」のこれまでの活動や成果、効果等を分析して、今後の農山漁村振興にどのようにつなげていくかということを考えていきたいと思っております。どうぞ委員の皆様よろしくお願いたします。

また、今回選定いたしました 30 事例を中心に現地視察等を実施したいと考えておりますので、小泉総理、また本日御出席いただきました安倍官房長官、中川大臣、中馬大臣始め、政府関係の皆様におかれましても、是非とも現地を何かのついでに御視察いただいて励ましていただきますと、現地の方は大変感激していただけると思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

農林水産大臣 農水省のに入った左側に展示コーナーがありますね。あそこに全部並べたらいいんですよ。

農村振興局長 わかりました。

林座長 ありがとうございます。

それでは、大体予定の時間になりましたので、本日の会議はこれで閉会とさせていただきます。

本当にどうもありがとうございました。